

Journal From Arlington, Boston

アーリントン高校 → ショッピング

アーリントン高校で踊りと歌と英語プレゼンを披露！



本日はアーリントン高校の交流を行いました。パフォーマンスの披露、授業体験、クラブ活動体験等、とても内容の濃い交流になりました。

アーリントン高校での交流

アーリントン高校では、朝食を一緒に食べ、校内見学をした後、大きな講堂で両校がパフォーマンスを披露しました。そしてそれから、実際に行われている授業に参加しました。

[1] 朝食にパンケーキを食べて、校内見学へ

アーリントン高校の生徒が作ってくれたパンケーキを皆で食べましたが、みなお腹がすいているのか、食欲旺盛でパンケーキ2枚をぺろりと平らげていました。朝食後は、班別にアーリントン高校の生徒たちが校内をツアーしてくれました。



手作りのパンケーキ

スクールツアー

[2] パフォーマンスを披露

大ホールに集まってきたアーリントン高校の生徒たちの前で歌と踊りを披露。スポットライトのあたる舞台の上にあがった生徒たちは、練習を重ねてきた「ふるさと」「Believe」「Sweet Caroline」を熱唱し、「よさこいソーラン」を精一杯踊りました。全てを出し切って歌い踊った日本の生徒たちに会場からもわれんばかりの拍手が！生徒たちの顔もほころび、満足感にあふれていました。また、その前にアーリントン高校の生徒が見事な歌

声を披露してくれました。



現地学生のパフォーマンス



生徒あいさつ



[3] 京都プレゼンテーション

昨日に引き続き班別に京都プレゼンテーションを行いました。高校生と中学生の息もぴったりでとてもスムーズな発表は素晴らしかったです！！



[4] 体育の授業に参加

大ホールでのパフォーマンスを終えた熱気が残る中、生徒たちは体育の授業に参加。体育館でクライミングの授業を体験しました。初めての体験の人が多く、ほとんどの人が抵抗なく登っていたのは、少し驚きました。ただ、時折下を見た時の怖さのために悲鳴(?)が聞こえることもありましたが、本格的な実践の授業に皆満足したと思います。



[5] 授業に参加

4班にわかれて英語と歴史の授業に参加しました。教室に入る時には少し緊張気味でしたが、とても明るい授業に顔もほころび、“参加型”の授業に異文化を感じた生徒も多かったことでしょう。



[6] Robotics 部とクッキングを体験

3Dプリンターとコンピューターでぎっしりと埋められた Robotics クラブの部屋に数名の生徒が案内され、実際に3Dプリンターで作品の製造を体験しました。皆、時間を忘れて食い入るように見入っていました。また残りの人たちはクッキングを体験しました。



今日一日のアーリントンでの活動を終えて、生徒たちは近くのスーパーマーケットへ行きました。どの生徒もたくさんのお土産を買い、「これは〇〇さんにあげる」と“土産話”がそこら中でおこなわれていました。明日はいよいよ終盤で、夕刻にはフェアウェルパーティーも用意されています。最後までこのプログラムを楽しんでくれることを心から祈っています。

Journal From Arlington, Boston

技術専門学校→ショッピングモール→フェアウェルパーティ

ミニットマン技術専門学校前にて



① ミニットマンでの交流

技術専門学校「ミニットマン」を訪問しました。ミニットマンは専門的な実習だけでなく、アカデミックな学習にも力を入れている専門学校で、3Dプリンターを使った授業、音楽の授業、保育実習、体育などを見学しました。3Dプリンターを使った授業では、生徒一人ひとりに木製の板に3Dプリンターで自分の名前を彫ったものをいただき、皆その精密さに感動していました。また音楽の授業では学生がすばらしい歌声を披露してくれ、体育の授業では、ピククルボルトというミニテニスを実際に体験し、生徒たちは汗を流しました。昼食をカフェテリアでとったあとに、いろいろなお土産をいただきました。ミニットマンも他の学校同様、大歓迎をしていただき、思い出に残る素晴らしい活動になったと思います。





② フェアウェルパーティに参加

ミニットマンでの交流後は、モールでショッピングを楽しみました。ショッピング終了後は、アーリントン高校に皆でバスでもどりました。そして本日最後のプログラムは「フェアウェルパーティ」のみ。女子生徒たちはみな浴衣に身を包み参加。男子生徒の中にも剣道着で参加する生徒もいました。お世話になったホストファミリーの前でふるさとと **Sweet Caroline** を大熱唱。ホストファミリーの方と最後の夜を満喫したことでしょう。ホストファミリーの皆さん、本当に、本当にお世話になりました。10日間という短い期間でしたが、生徒たち一人ひとりが一生忘れない体験をしたと思います。本当に、本当にありがとうございました。Thank you so much.



Journal From Arlington, Boston

ホストファミリーとお別れ→ウィルソンファームツアー→ボストン空港→日本へ

アーリントン高校前で最後の記念撮影



① ついにホストファミリーとお別れの日が…

朝の8時半にホストファミリーと一緒にアーリントン高校前に集合。あいにく小雨でしたが、到着した直後から目に涙を浮かべる生徒の姿も。生徒一人ひとりが、ホストファミリーに感謝の思いを精一杯英語で伝えていました。そして、最後の記念撮影が終わると、最後の別れを惜しむかのようにハグをしていました。一人ひとりホストファミリーと過ごした貴重な10日間は、一生の宝物となり、これからの学校生活にかならずや生かすことができると思います。名残を惜しみながらバスに乗り込みましたが、生徒もホストファミリーの方々も大きく手を振りながらアーリントン高校をあとにしました。



バスから最後のお別れ

② ウィルソンファームツアー

バスを降りた瞬間にファームの大きさに皆“アメリカ”を実感！最初にこのファームでとれたリンゴを丸ごとその場で食べました。日本では歩きながらリンゴを食べる習慣はあまりないため少しためらいがちでしたが、「ここはアメリカ」とすぐにリンゴにかじりついていました。多くの美しい花や新鮮な野菜などなど現地の方の説明を熱心に聞き入っていました。“アメリカ”を感じたツアーでした。



③ ボストン空港から日本へ

現地時間13時30分、予定通りボストン空港から成田行きの飛行機に乗りました。生徒はホッとする気持ちと離れたくないという気持ちが混じりあっていたのではないのでしょうか。機内では英語の日記を書く生徒や映画を見たりしていましたが、食後はみなぐっすり眠っていました。

あっという間の10日間だったと思いますが、生徒たちにとっては一生涯忘れない体験になったのではないかと思います。これからの学校生活にこの貴重な体験をぜひ生かしてもらえればと願っています。